



# Ecosystem Global Sustainability Barometer調査

日本向け調査結果レポート

2024年版

後援：

kyndryl.



2024年11月



# 目次

- 03 **調査概要**
- 42 **日本**
- 44 戦略と認識
- 54 遂行  
人、ガバナンス、ナラティブ
- 61 テクノロジー

# 調査概要



# 調査概要 - 回答者の内訳

## 国

### 北米・中南米



### アジア・太平洋



### 欧州



## 業界

40%  
金融  
サービス

15%  
製造

15%  
小売

5%  
建設・  
不動産

5%  
エネルギー・  
公益事業

5%  
接客サービス

5%  
第一次産業

5%  
メディア・  
通信

5%  
運輸・物流

## 組織規模（従業員数）



25%  
201~499人



24%  
500~999人



30%  
1,000~4,999人



21%  
5,000人以上

# 主なポイント

## 戦略

世界の組織の84%は自社のサステナビリティ目標の達成を非常に重視しています。一方で、サステナビリティを企業戦略や変革戦略に組み入れ、実際のデータや事実に基づいて目標を設定・計測できている組織は8%に過ぎず、その割合は昨年調査時よりも低下しました。

**推進要因：**組織は規制要件にも応えていますが、それ以上に顧客や従業員からの要求・期待に応えており、今後もこの傾向が続くでしょう。また、サステナビリティ重視を求める声はサプライチェーンパートナーからも上がっています。

**課題：**上位の課題は優先順位付けに関係しています。例えば用いるべき枠組み、配分の必要があるリソース、サステナビリティ目標の実現に必要なデータなどです。組織は引き続き、情報開示に関して政府がより明確な指示や指針をより多く示すことを求めています。

**変化のペース：**ステークホルダーからの圧力や規制の働きが維持され、76%の組織でサステナビリティ関連の取り組みの推進力となっています。一方、24%の組織では優先順位の変更やリソースの制約が原因で、失速が見られます。

## 人

組織は引き続き、サステナビリティプログラムに従業員を参加させることに苦戦しています。ほとんどの組織は、従業員が目標や責任をある程度認識していると回答していますが、理解が限定的としている組織も依然としてかなりの割合に上っています。

**サステナビリティ関連の役割と責任：**サステナビリティ関連のビジョンの策定に関しては、CEOが引き続き中心的な役割を担っていますが、責任を共有する傾向も強まっており、CEO以外の役職の関与が活発化しています。20%の組織では専任のサステナビリティ責任者が先頭に立ち、サステナビリティ関連の取り組みが協働的な性質を強めていることが浮き彫りになりました。

**リアルタイムのデータ可視性：**ダッシュボードで社内のサステナビリティ進捗をリアルタイムに確認できる組織は39%ですが、そのデータを従業員と共有しているのは10%に過ぎません。多くの場合は、サステナビリティ責任者や経営層が特権的なアクセス権を持っています。

# 主なポイント

## テクノロジー

テクノロジーがサステナビリティ目標の達成において果たす役割の重要性に関しては広く認識されているものの、その潜在的な可能性を活かし切れていると感じている組織はわずか40%です。サステナビリティ関連のデータを、組織変革のための情報源として効果的に利用していると回答した組織は、15%に過ぎません。

**包括的な活用の欠如：**テクノロジーチームはサステナビリティ関連の取り組みへの関与を強めているものの、テクノロジーチーム自体の排出量削減と、組織全体のより広いサステナビリティ目標達成の両方に積極的に注力しているチームは21%に過ぎません。38%の組織では、テクノロジーチームの関与が「グリーンIT」施策の遂行に限定されています。

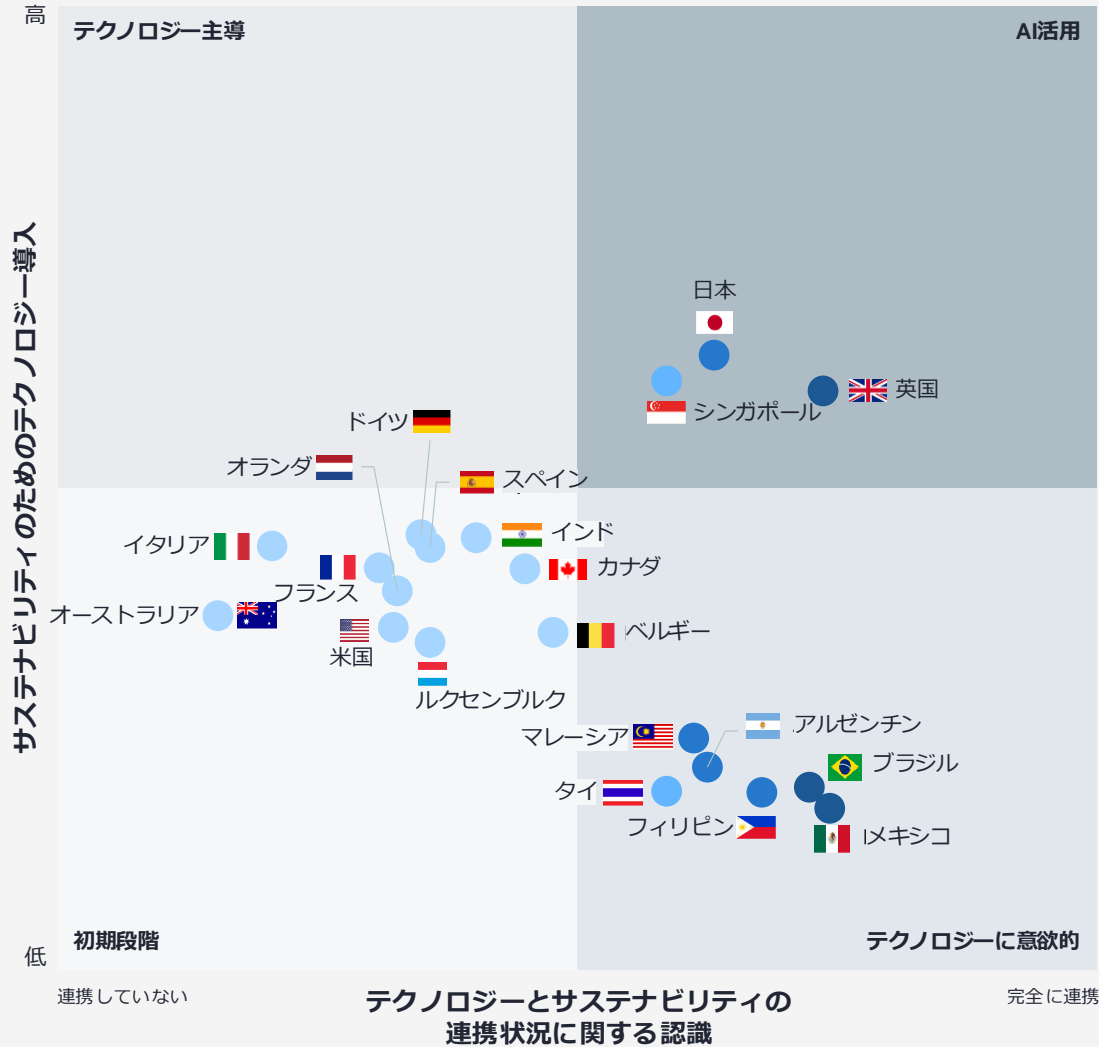
**AIの活用の不足：**サステナビリティのためのテクノロジー活用に関して、企業は大きな進歩を見せているものの、「スコープ3」リスクの評価やエネルギー消費の予測、自然災害への備えといった重要な用途ではAIの活用が依然として不十分です。その代わりに、AIは主にレポート作成の用途で用いられています。

**AIについての認識：**54%の組織はAIがサステナビリティ目標に大きなインパクトを発揮し得ると認識していますが、一方で環境への影響に対する認識も高まっています。60%はAIの導入が炭素排出量に影響するだろうと回答し、50%はサステナビリティ慣行に係るコスト上昇を予想しています。



# 全世界のサステナビリティの状況 - 各国の比較

ecosystem.io



## パラメーターについて

### テクノロジーとサステナビリティの連携状況に関する認識

サステナビリティのためのテクノロジー利用がどう見られているか (X軸)

### サステナビリティのためのテクノロジー導入

サステナビリティに向けたテクノロジーの実際の導入状況 (Y軸)

### 組織のサステナビリティ戦略

サステナビリティ戦略に対する組織の注力度 (丸印の色の濃淡で示す)



**AI活用** : サステナビリティ推進の最前線にいます。オペレーションの最適化、将来トレンドの予測、イノベーションの促進にAIを活用しています。

**テクノロジー主導** : データ中心型のアプローチを導入済み。データ分析を通じ、意思決定のための情報を得たり、進捗を測定したりしています。

**テクノロジーに意欲的** : サステナビリティのためにテクノロジーを活用したいという望みを強く持っていますが、リソースや専門知識が不足している可能性があります。

**初期段階** : サステナビリティの道のりを歩み始めているところで、基本的な戦略と限定的なテクノロジー導入に注力している段階です。

日本







# 回答者の内訳 - 日本



## 部門



## 業界

24  
金融サービス

9  
第一次産業

9  
小売

3  
製造

3  
建設・不動産

3  
エネルギー・  
公益事業

3  
接客サービス

3  
メディア・通信

3  
運輸・物流

## 組織規模 (従業員数)

10  
201~  
499人

12  
500~  
999人

25  
1,000~  
4,999人

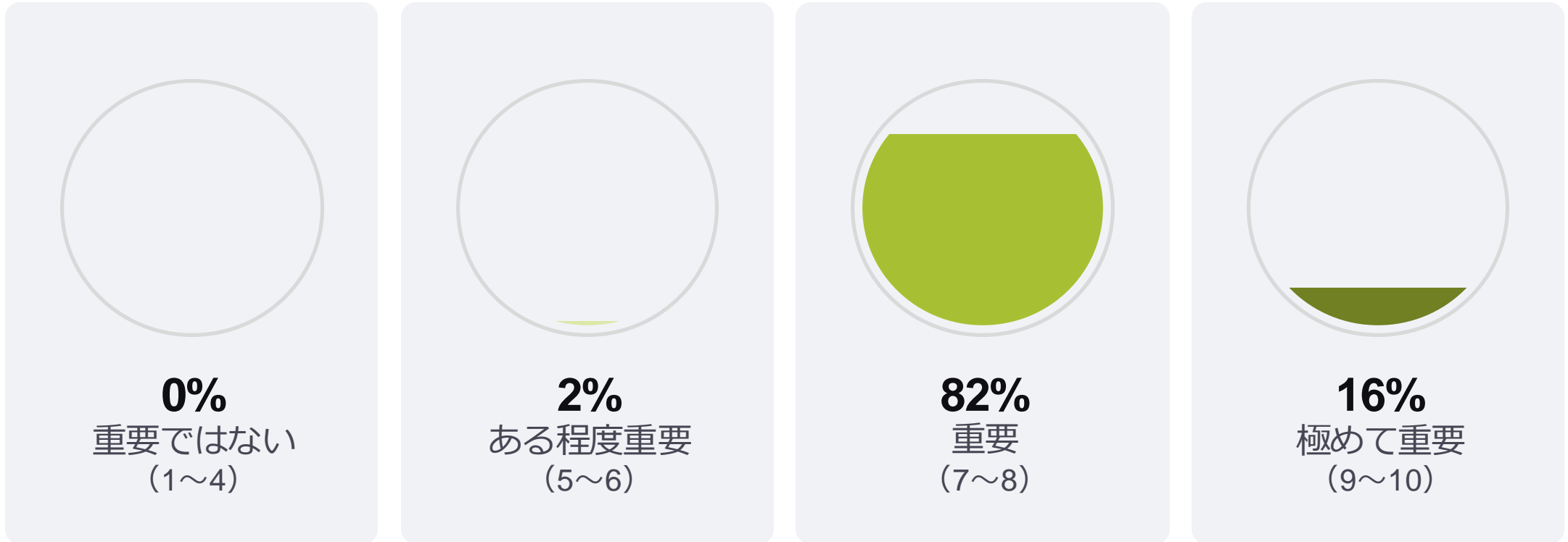
13  
5,000人  
以上

# 戦略と認識





# 組織内でのサステナビリティの重要度



# サステナビリティ関連の取り組みのペース



## 昨年からの変化

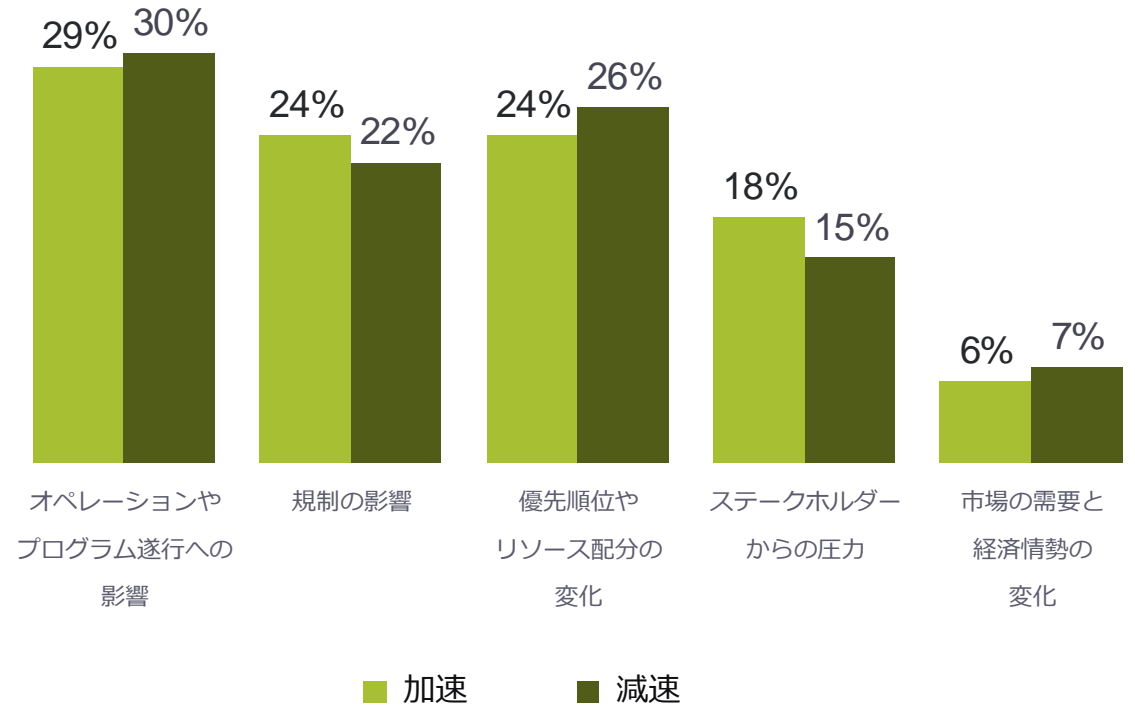


**45%** 減速した

**28%** 加速した

**27%** 変わらない

## 変化の理由



N = 60  
質問：昨年1年で、サステナビリティ目標とその遂行は減速しましたか、それとも加速しましたか。

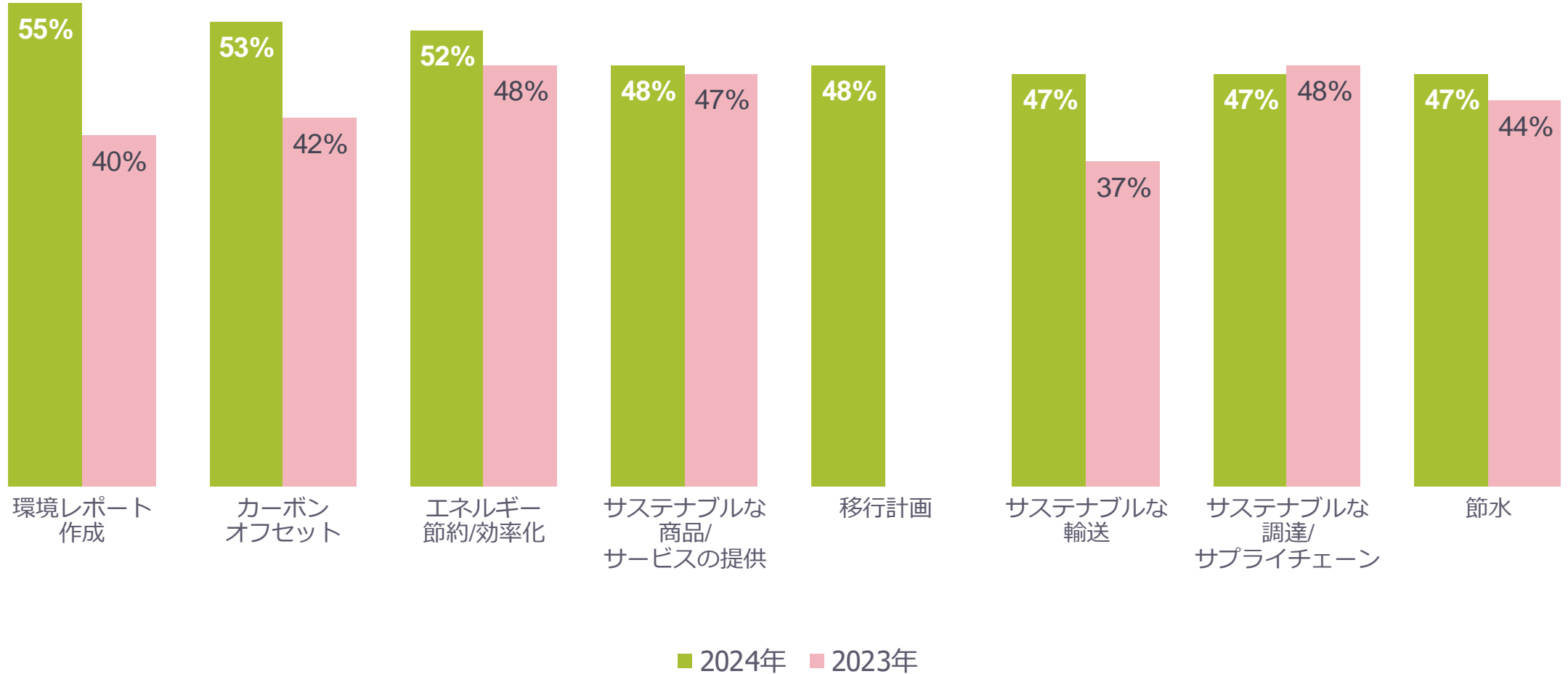
N = 44  
質問：サステナビリティ目標とその遂行のペースが変化した主な理由は何ですか。



# 実行中の環境施策（上位）



ecosystem.io



N = 60 (2023年 N=120)

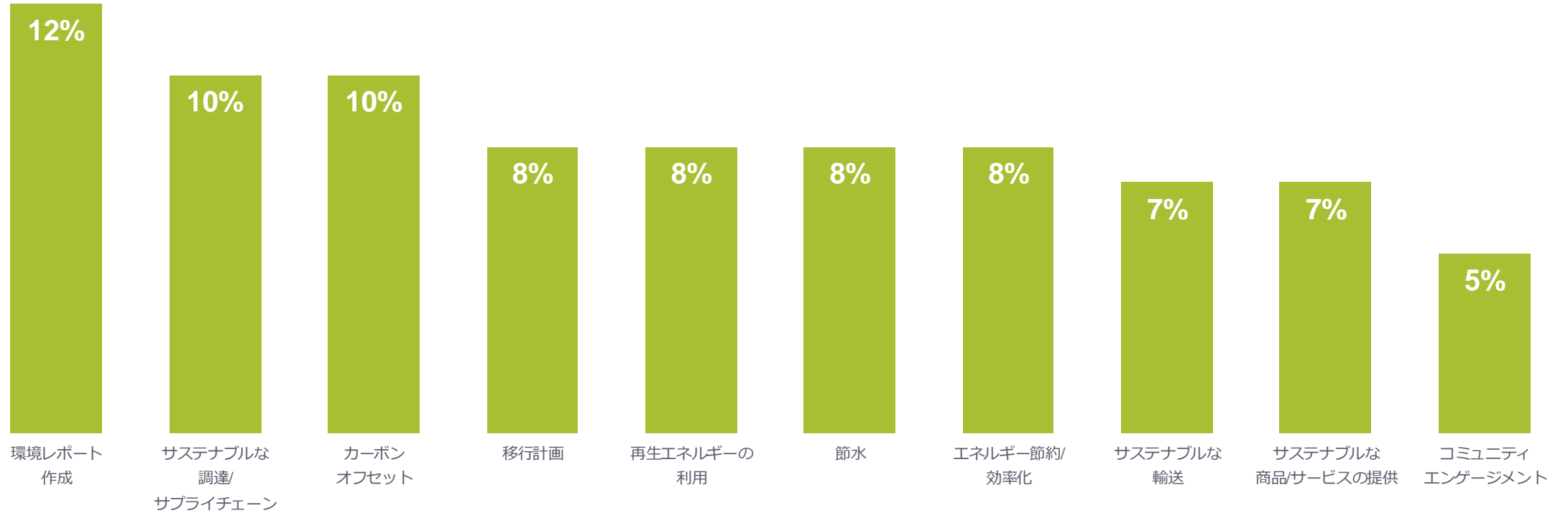
質問：あなたの組織が実行している環境施策はどれですか。



# 最も効果のあった環境施策



ecosystem.io





# サステナビリティ推進を求めている ステークホルダー（上位）

ecosystem.io

45%



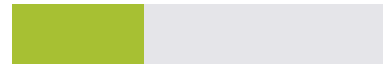
サプライチェーン  
パートナー

43%



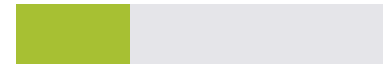
コミュニティ

35%



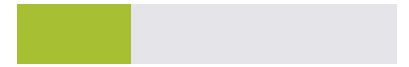
政府/規制当局

30%



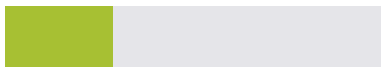
評価機関

30%



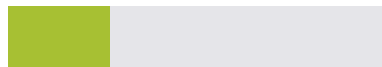
顧客

28%



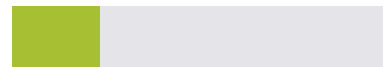
投資家/株主

27%



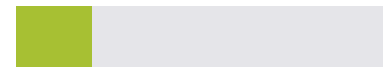
銀行/金融サービス  
業者

23%



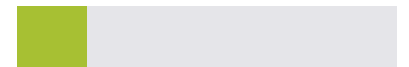
従業員

20%



非営利組織

18%



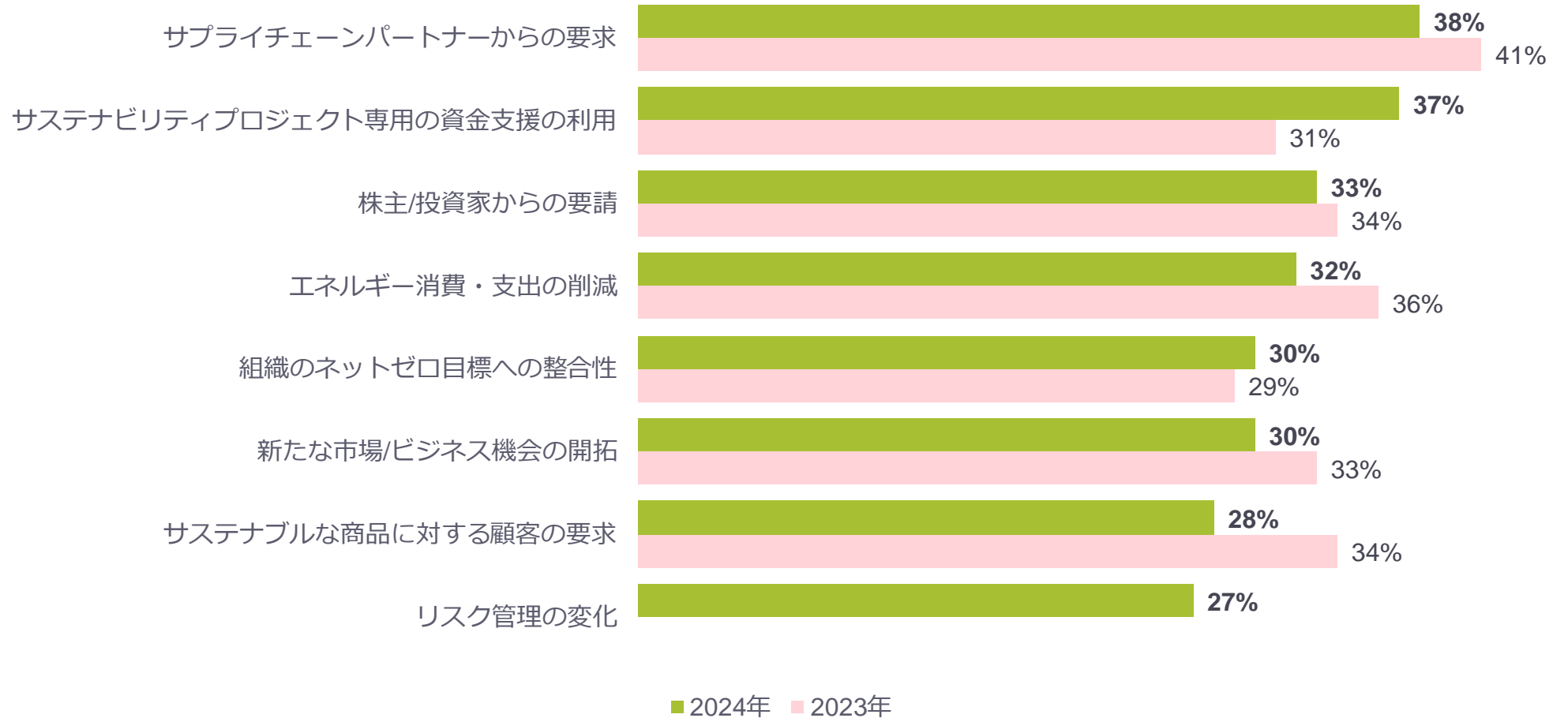
保険業者

N = 60

質問：あなたの組織のサステナビリティ関連ポリシー/慣行に対して、最も強く推進を求めたステークホルダーを上位3つまで挙げてください。



# サステナビリティの主な推進要因

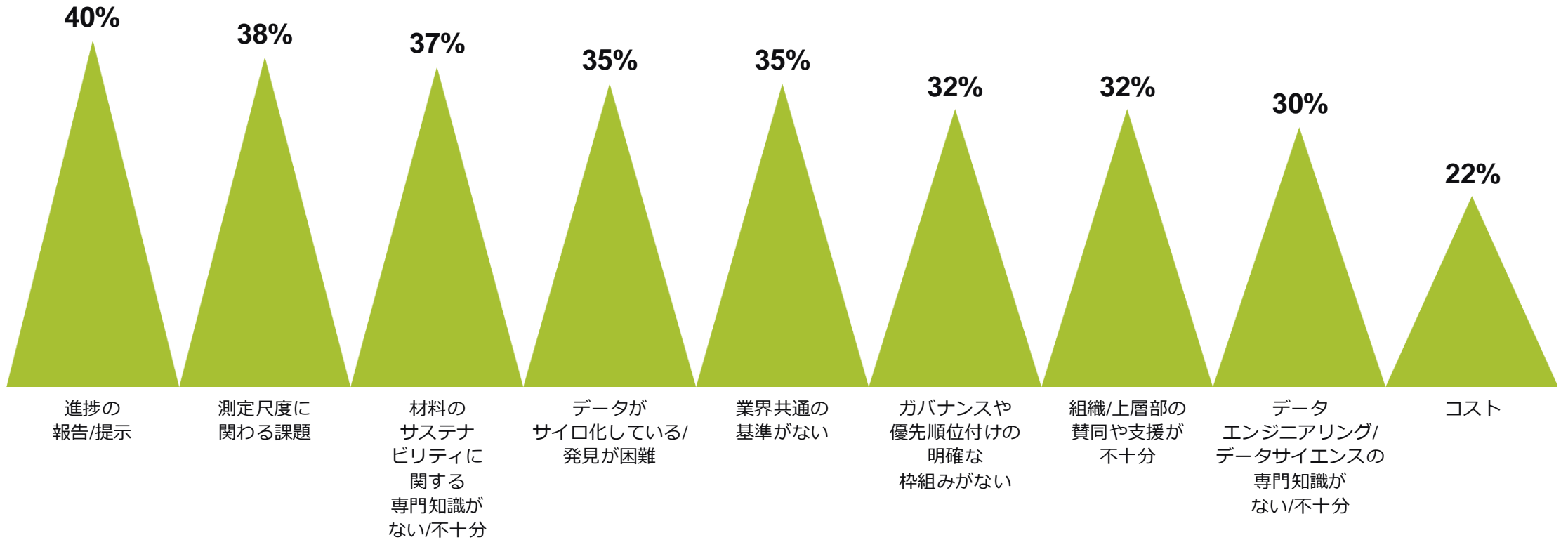


N = 60 (2023年 N=120)

質問：あなたの組織のサステナビリティ目標を推進している主な要因を3つ挙げてください。



# サステナビリティ導入を妨げる主な課題

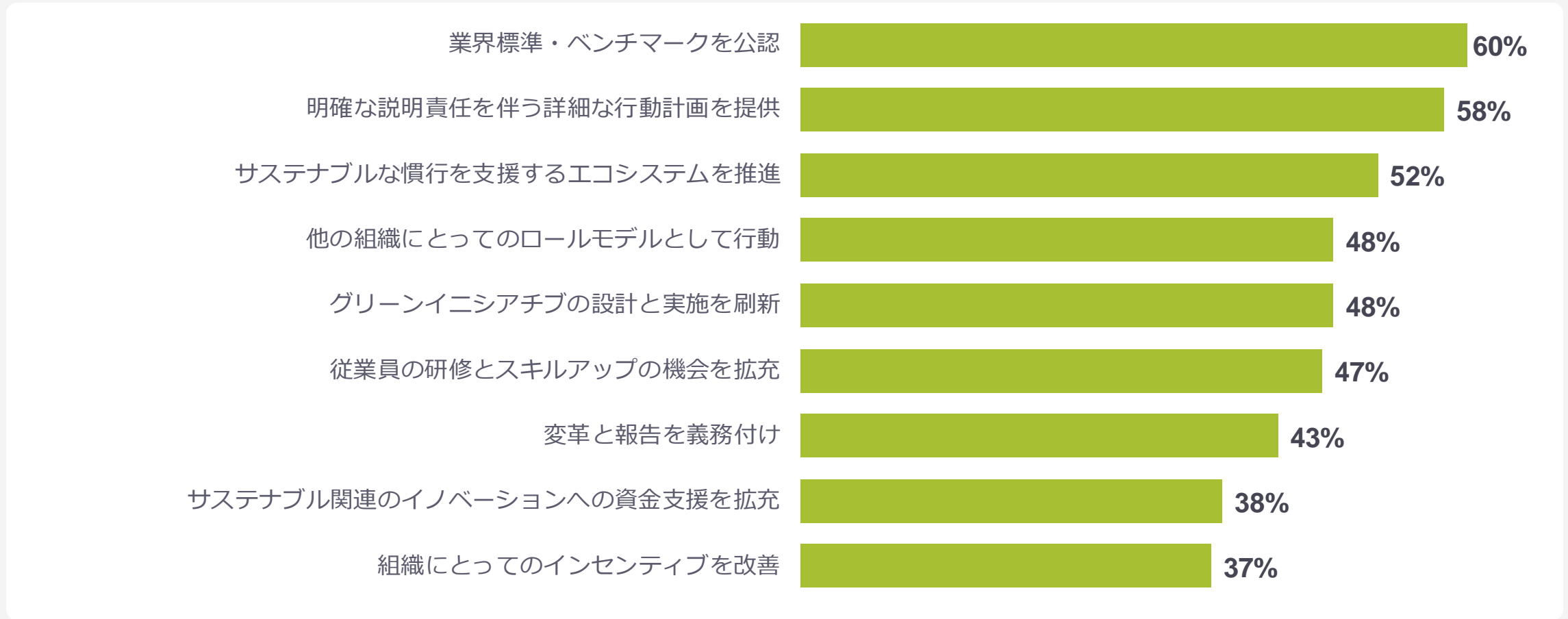


N = 60

質問：サステナビリティ施策の導入に際して直面している主な課題を3つ挙げてください。



# サステナビリティ導入を政府はどのように支援できるか



遂行



人、ガバナンス、ナラティブ

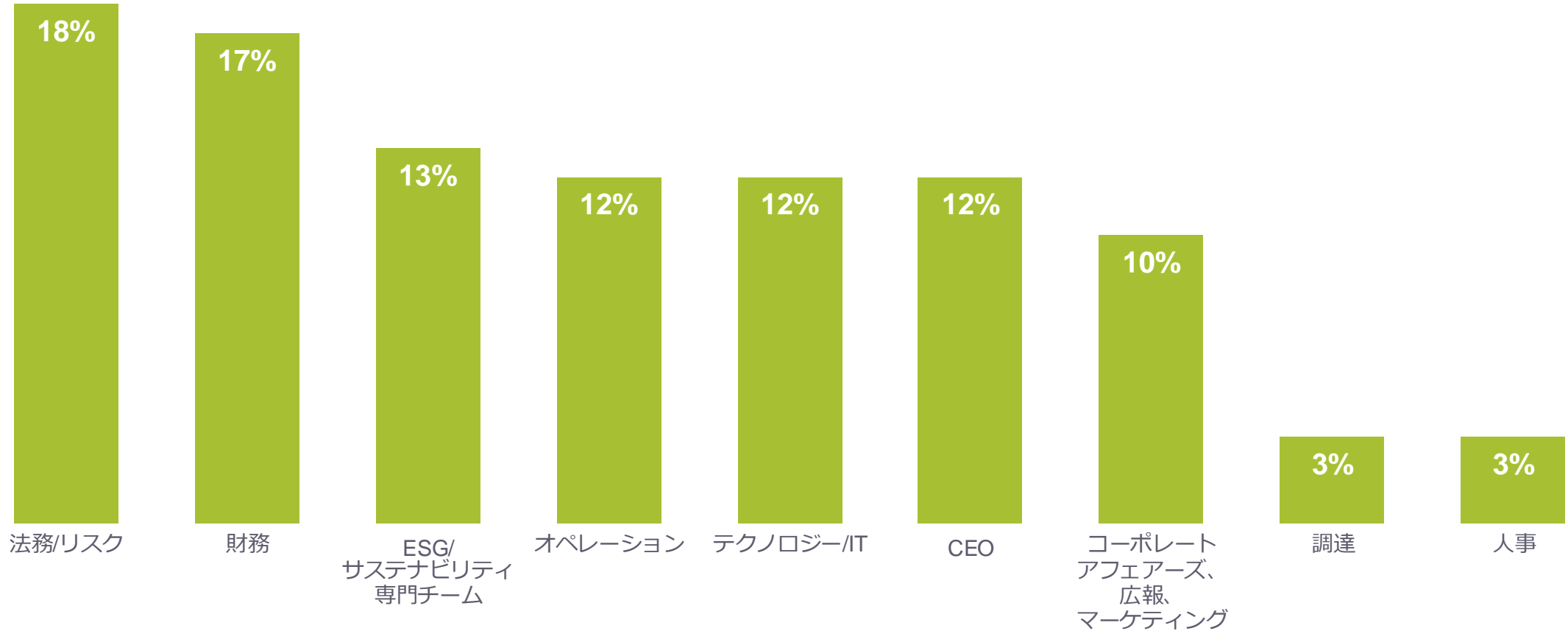




# サステナビリティに関するリーダーシップ



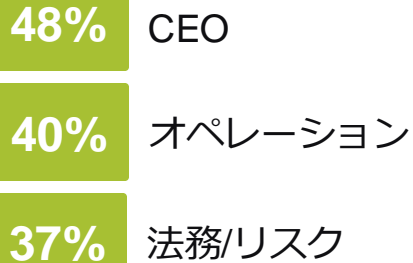
ecosystem.io



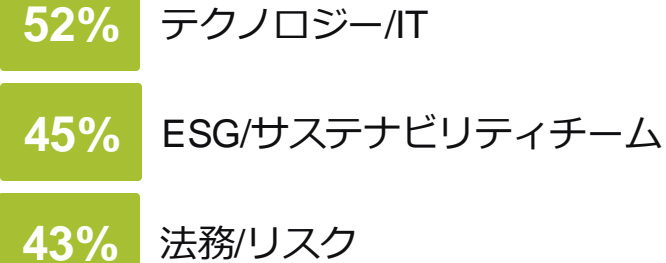
# 主要なステークホルダーの役割



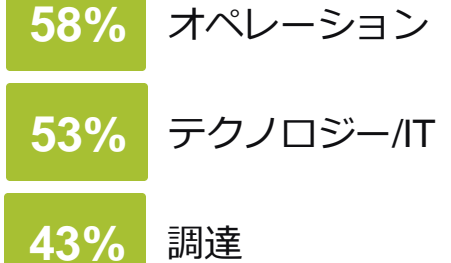
## ビジョンの策定



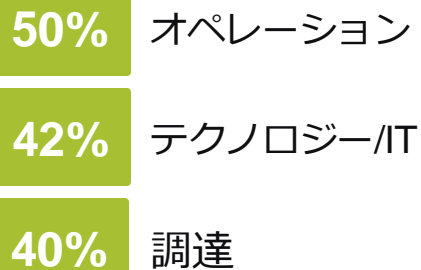
## サステナビリティ成果の実現



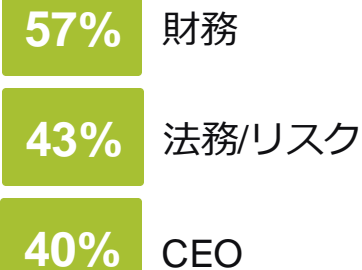
## データの提供



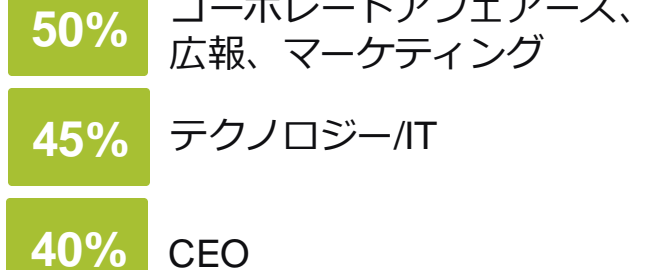
## データの管理



## 評価尺度の決定

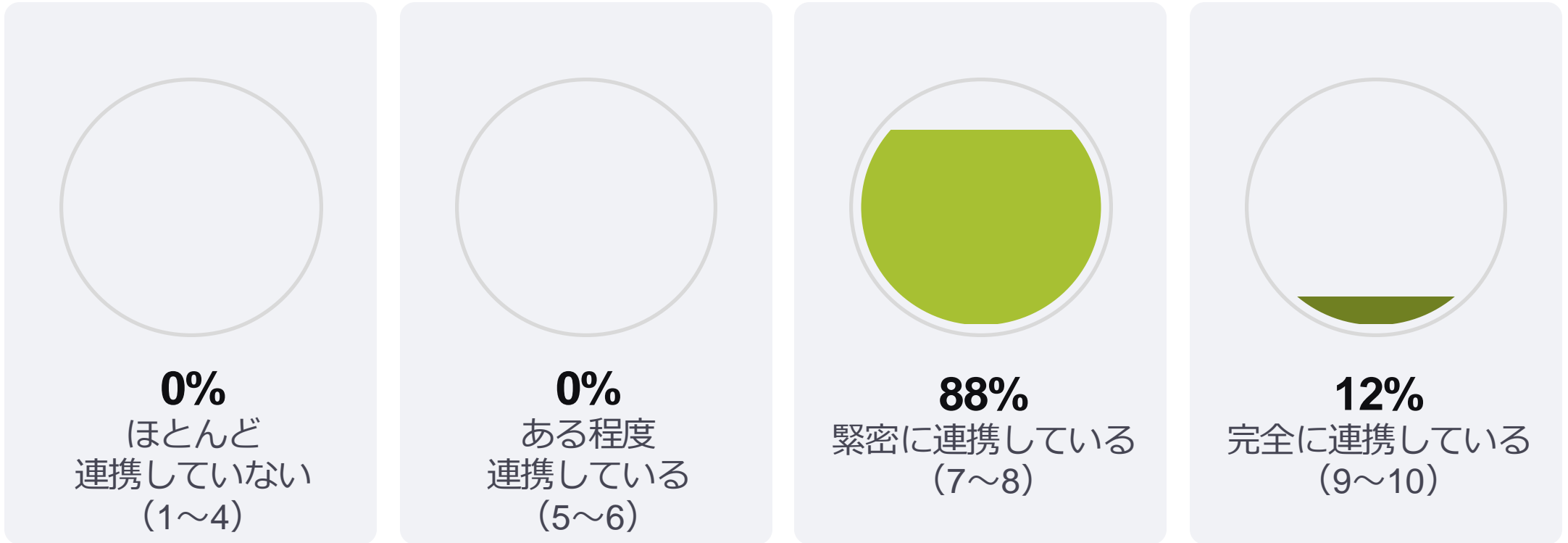


## レポート作成





# サステナビリティチームと財務部門との連携状況



# サステナビリティに対する従業員参加の成熟度



**2%**

**サステナビリティ意識が乏しい**

従業員の間でサステナビリティ目標に対する理解が乏しい。



**8%**

**サステナビリティ意識が初歩段階**

従業員はサステナビリティ目標を意識しているが、その達成のために自らが果たす役割について理解が不十分な場合がある。



**37%**

**サステナビリティへの関与が生まれつつある**

従業員はサステナビリティ責任や、その責任と自らの役割との関係について、基礎的な理解を持っている。



**30%**

**KPIに基づくサステナビリティ**

サステナビリティKPIが従業員の役割に応じて適切に設定されており、サステナビリティに対して、よりのめを絞ったアプローチが促されている。

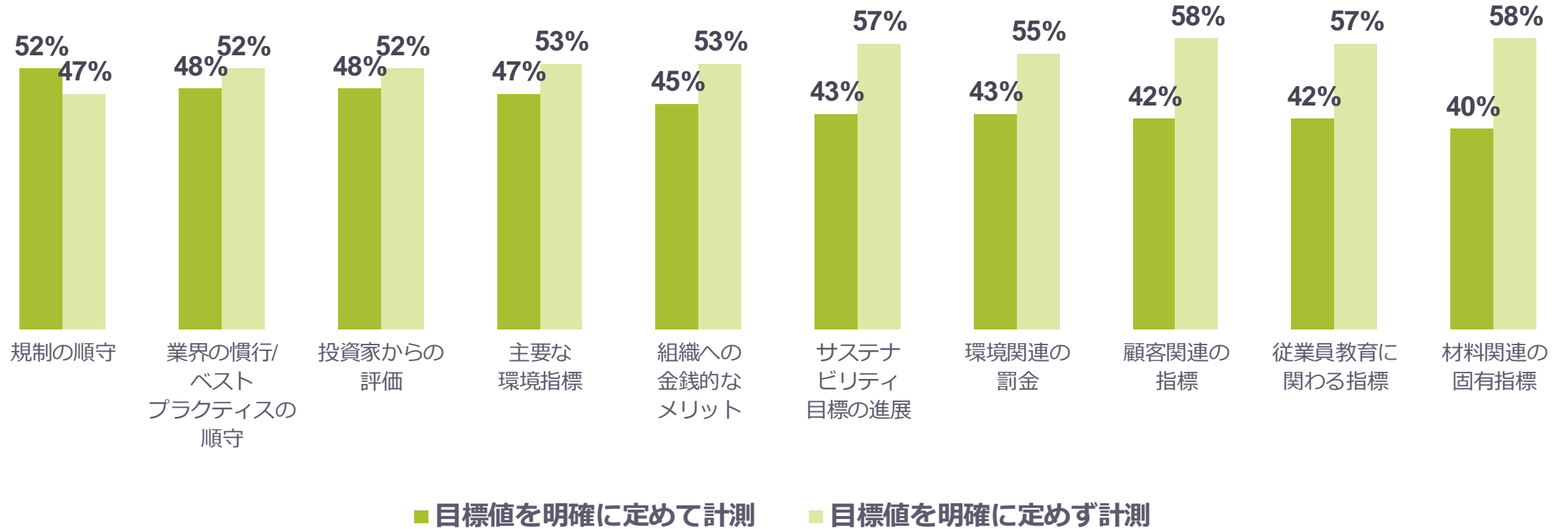


**23%**

**戦略的な必須事項としてのサステナビリティ**

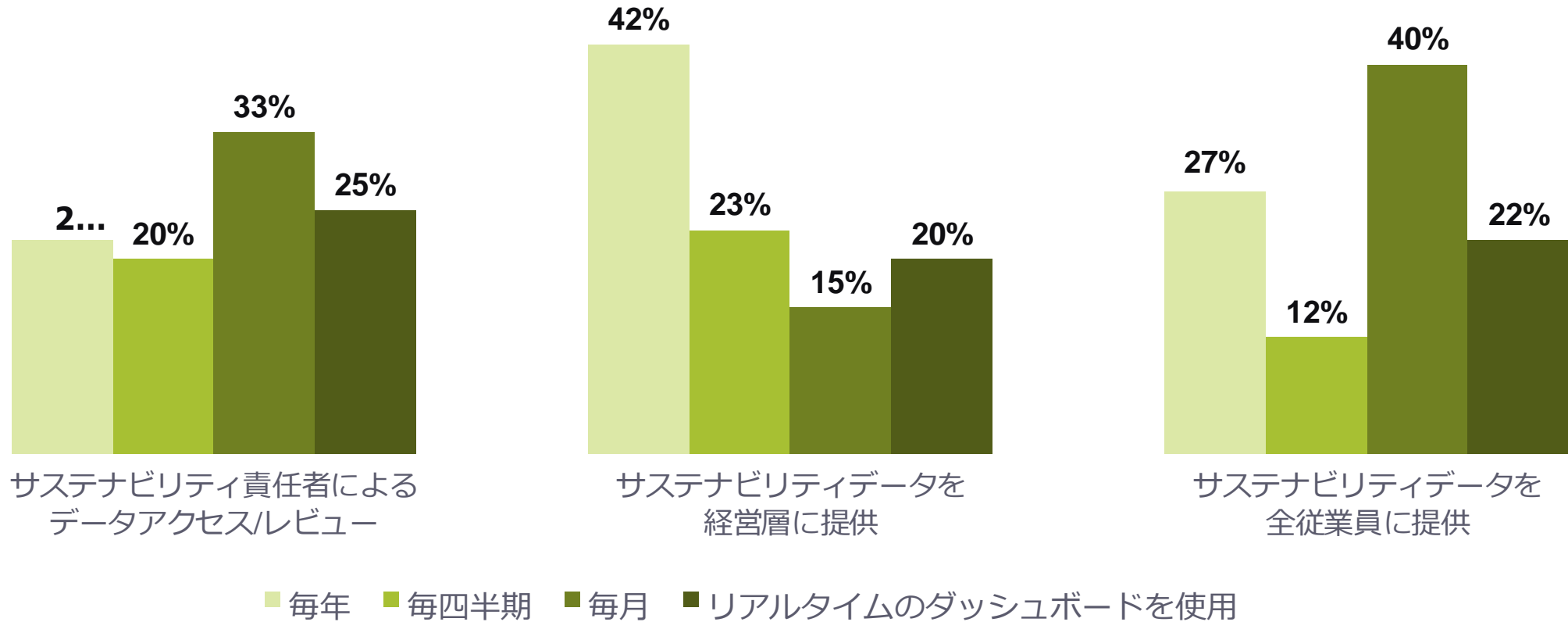
サステナビリティ業績が経営層や主要な従業員の報酬に結びつけられており、戦略的な優先事項としての位置づけが強められている。

# サステナビリティの計測に用いられている評価尺度





# サステナビリティデータへのアクセスと共有

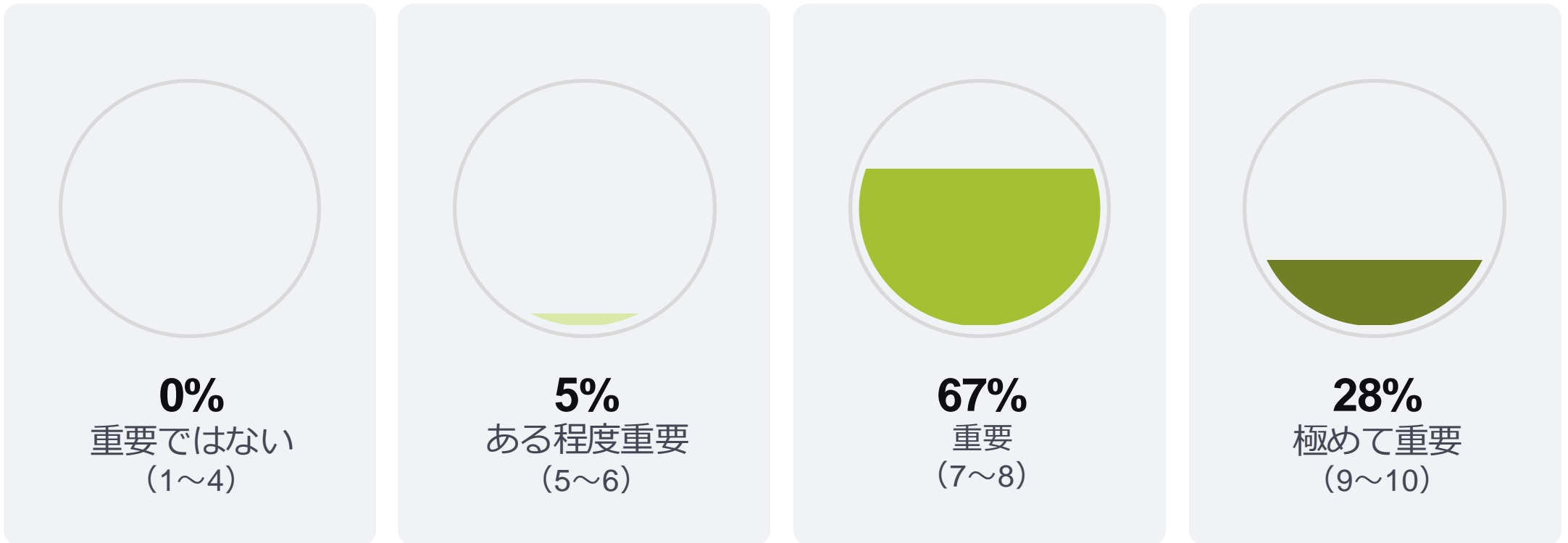


テクノロジー



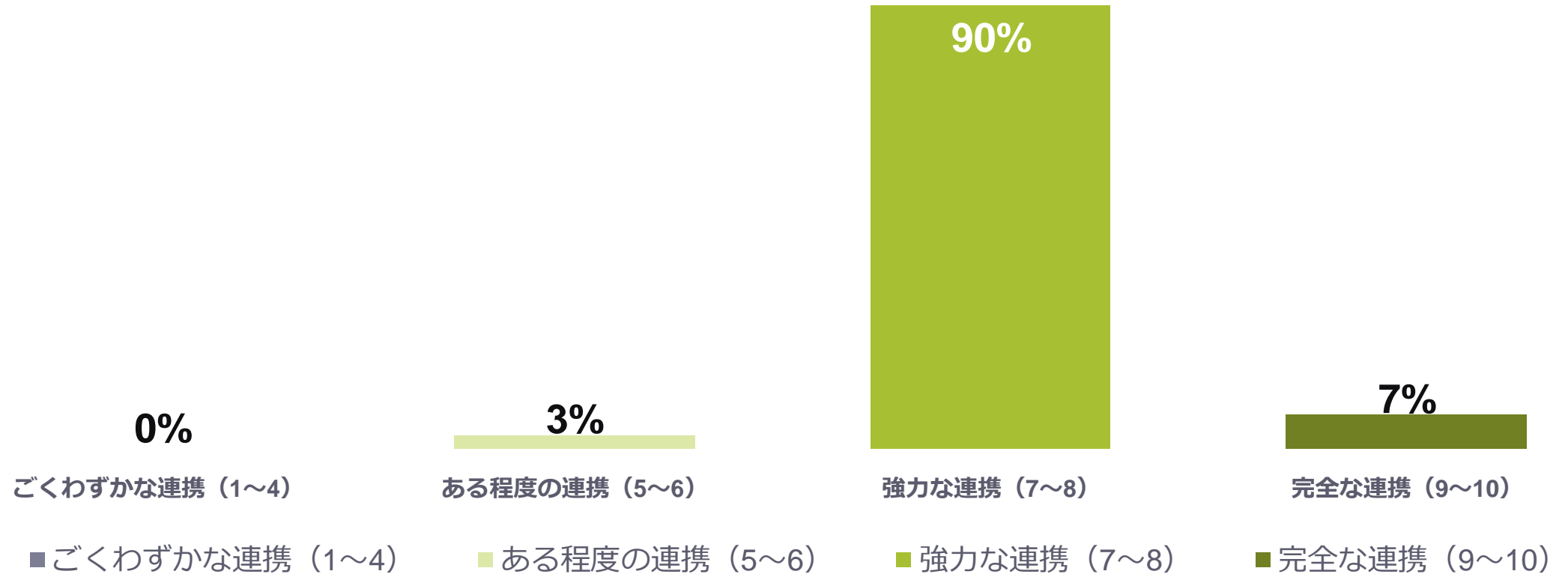


# サステナビリティ目標の達成におけるテクノロジー部門の重要性



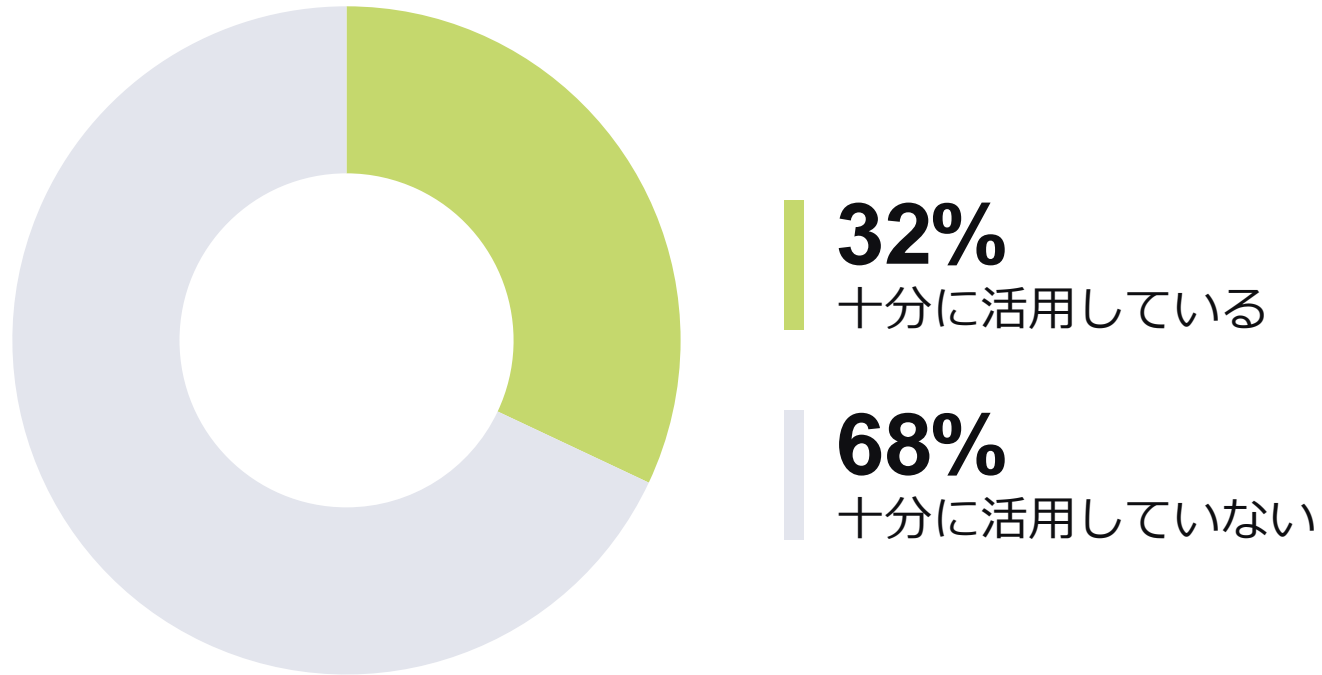


# サステナビリティチームとテクノロジー部門との連携状況



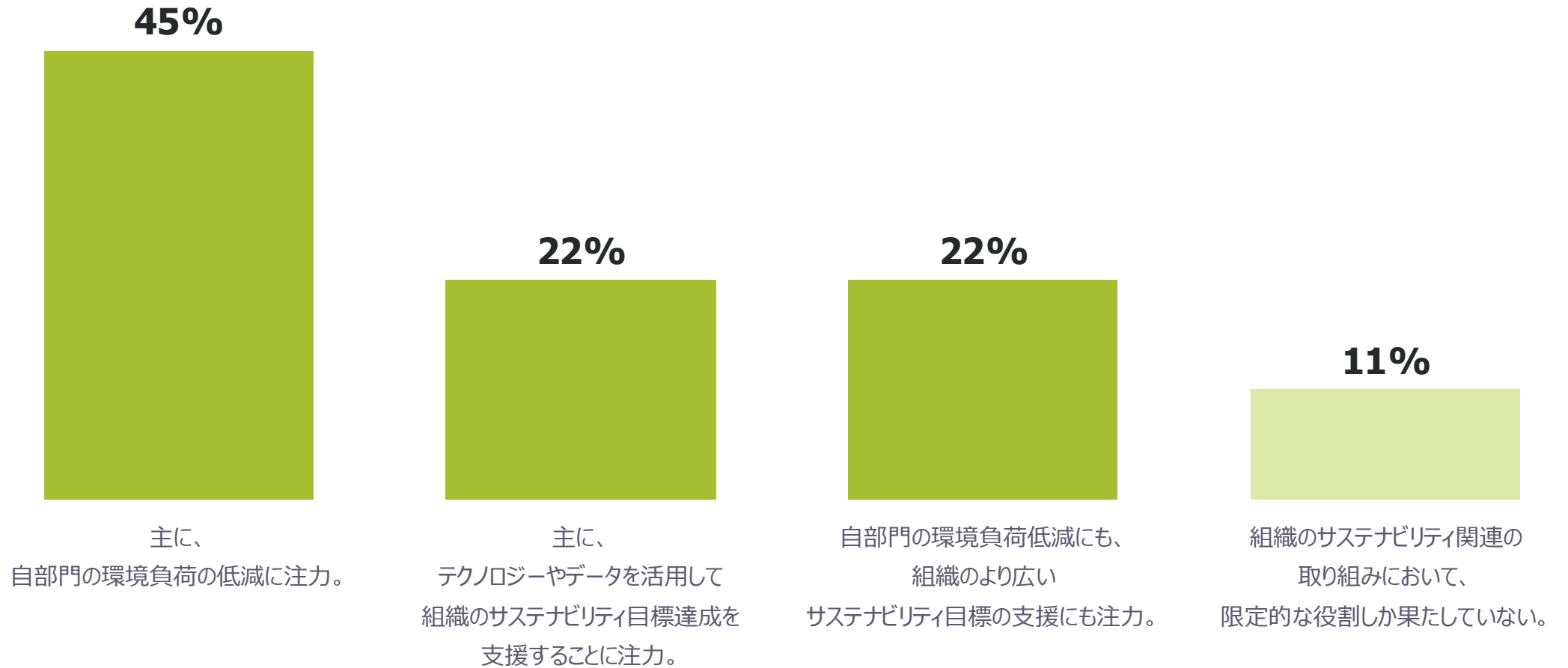


# サステナビリティ目標の達成に向けたIT部門の活用度





# サステナビリティ目標達成における IT/テクノロジー部門の役割

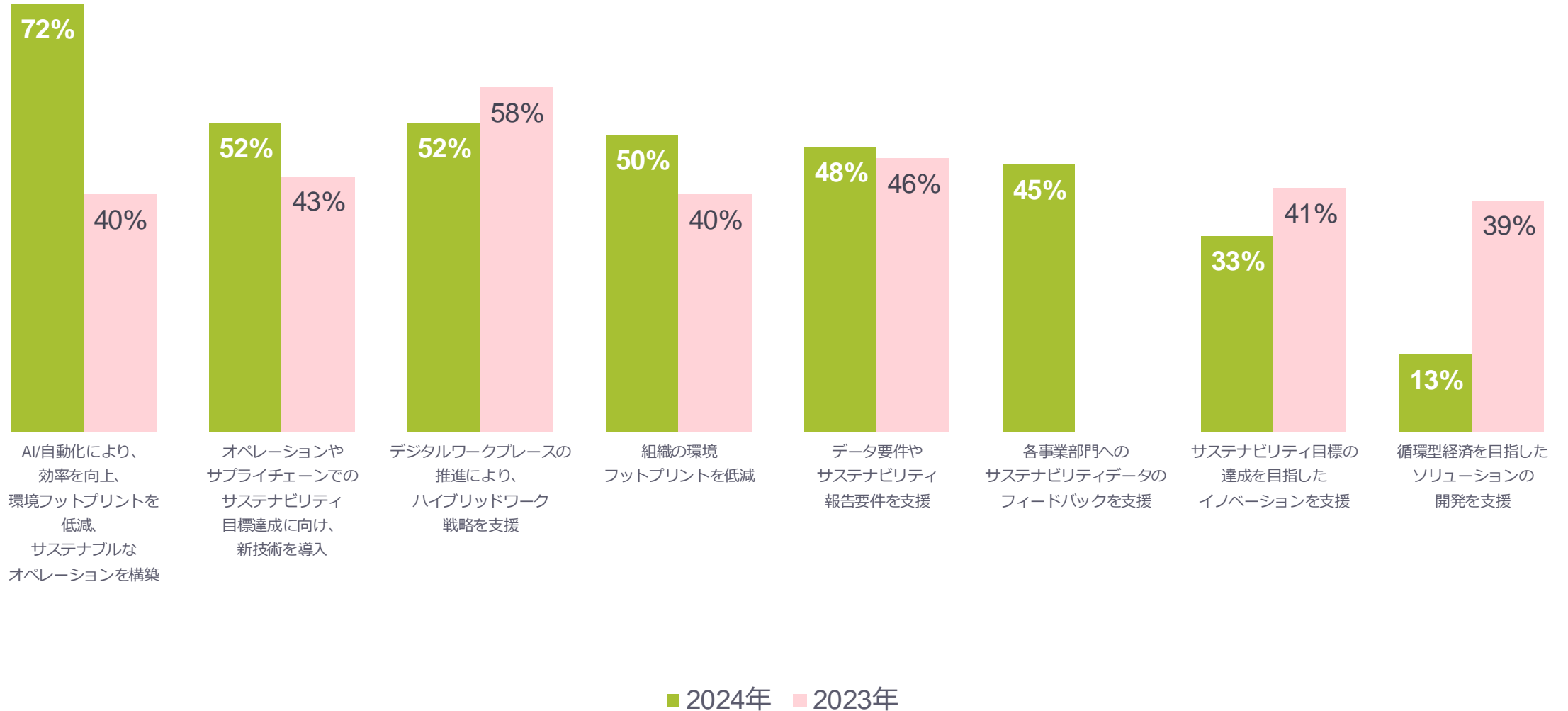




# サステナビリティの支援におけるテクノロジー部門の役割



ecosystem.io



N = 60 (2023年 N=120)

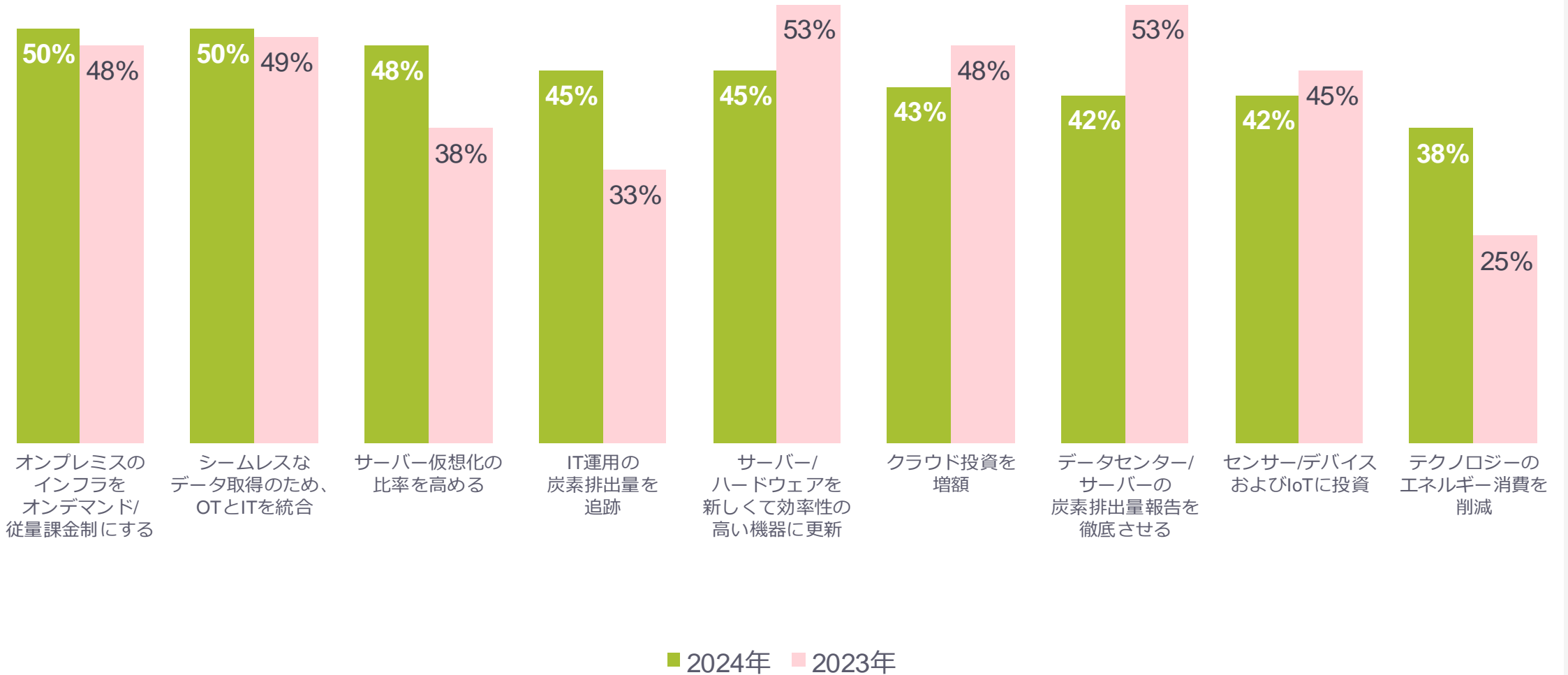
質問：IT/テクノロジーチームは、組織のサステナビリティ目標をどのように支援していますか。



# テクノロジーチームによる カーボンフットプリント削減施策



ecosystm.io



N = 60 (2023年 N=120)

質問：あなたの組織のIT/テクノロジーチームは、カーボンフットプリント削減のためにどのような行動を取っていますか。





# データ主導のサステナビリティ： インパクトのためにインサイトを活用



**15%**

サステナビリティ関連の取り組みの追跡や計測にデータを使用していない



**23%**

サステナビリティ関連の取り組みについて、ある程度のデータを収集しているが、それを分析や意思決定には使用していない



**30%**

レポート作成の目的で、主要なサステナビリティ指標の追跡にデータを使用している



**17%**

データを使用して、業務アプリケーション全体でサステナビリティ業績を追跡・分析・最適化している

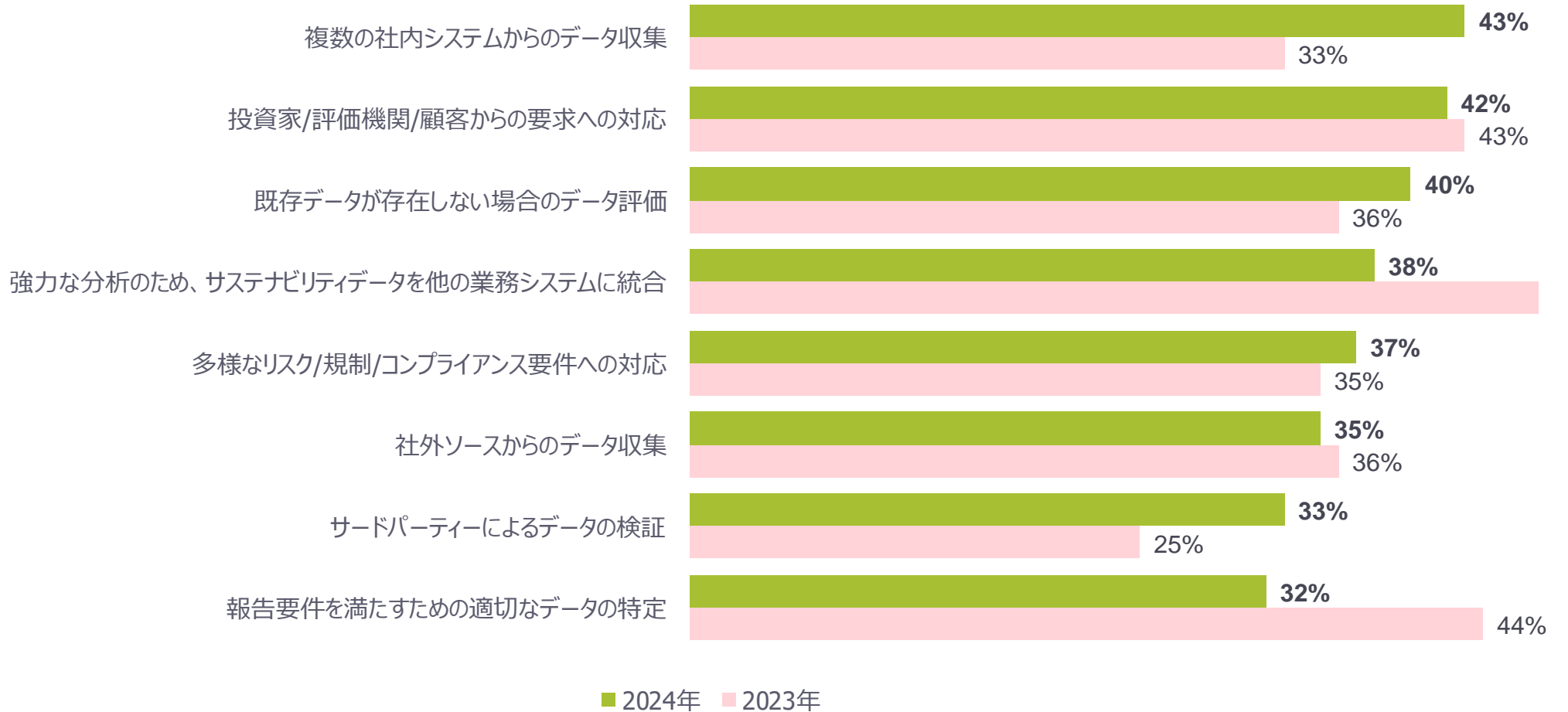


**15%**

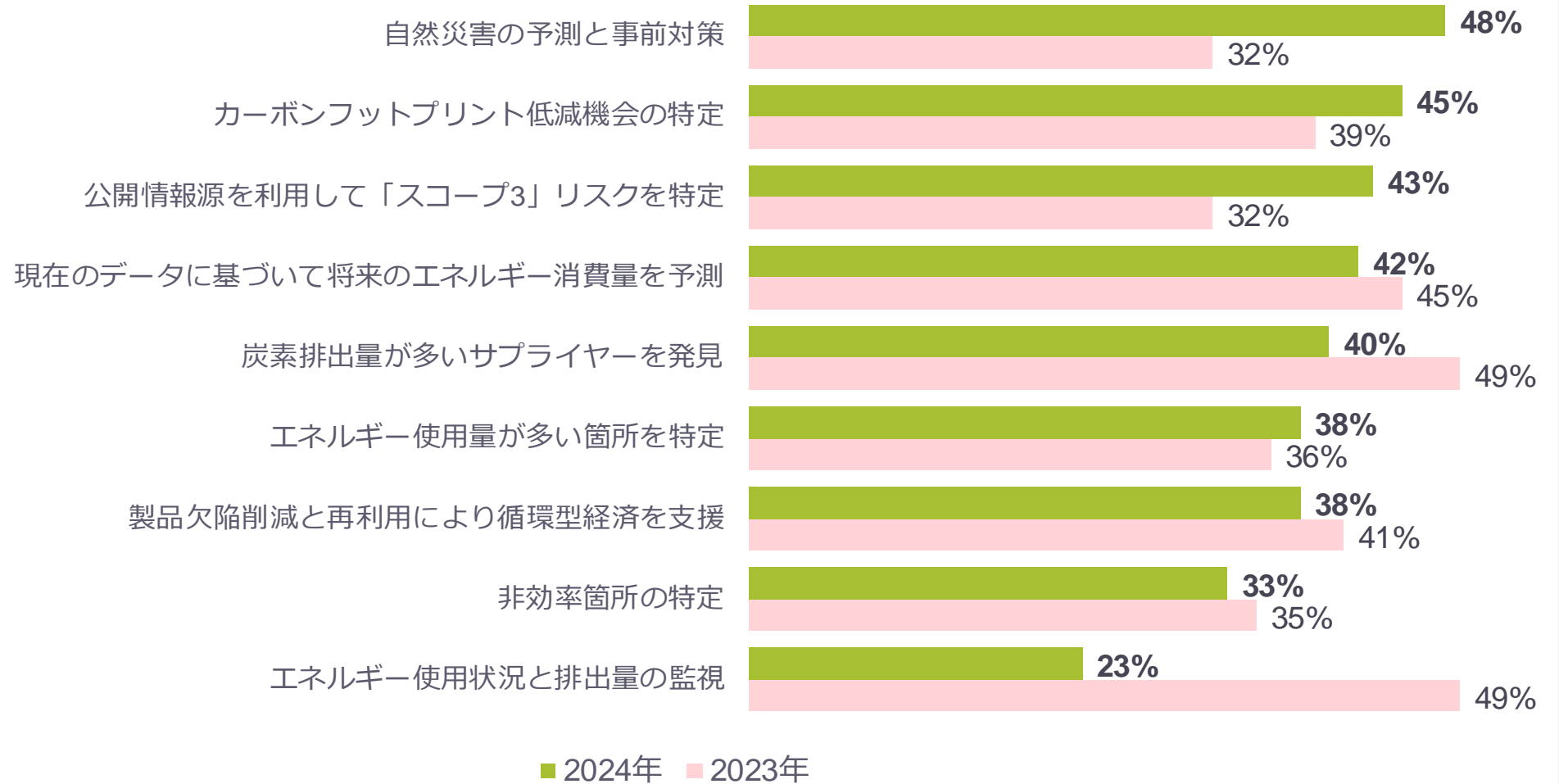
サステナビリティ関連の取り組みから得られるデータを使用して、組織全体の変革の指針としている



# サステナビリティデータへのニーズを支える上での課題



# 環境フットプリント管理におけるAIの用途





# AIの環境インパクト

## インパクトは考慮されているか



70%  
はい

15%  
いいえ

15%  
わからない

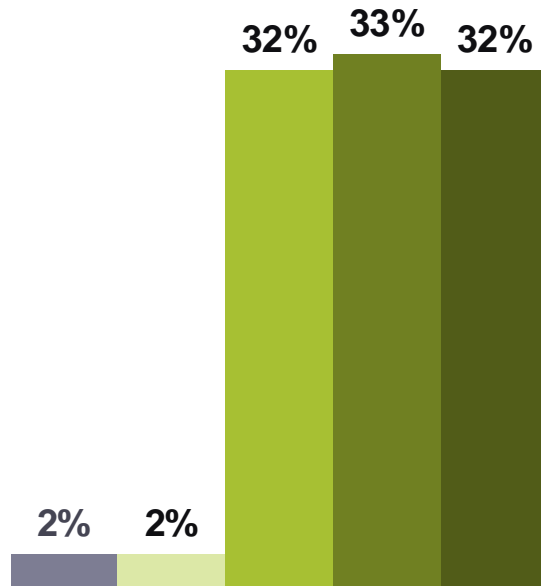


# AIのインパクトに関する認識

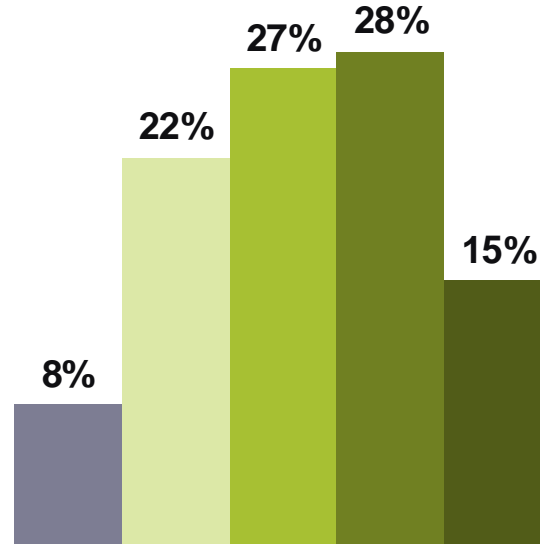


ecosystem.io

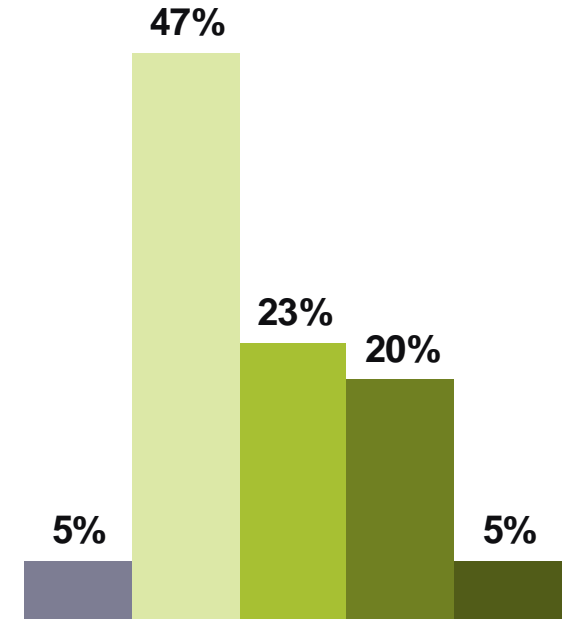
## サステナビリティ目標の達成に対するインパクト



## 組織の炭素排出量に対するインパクト



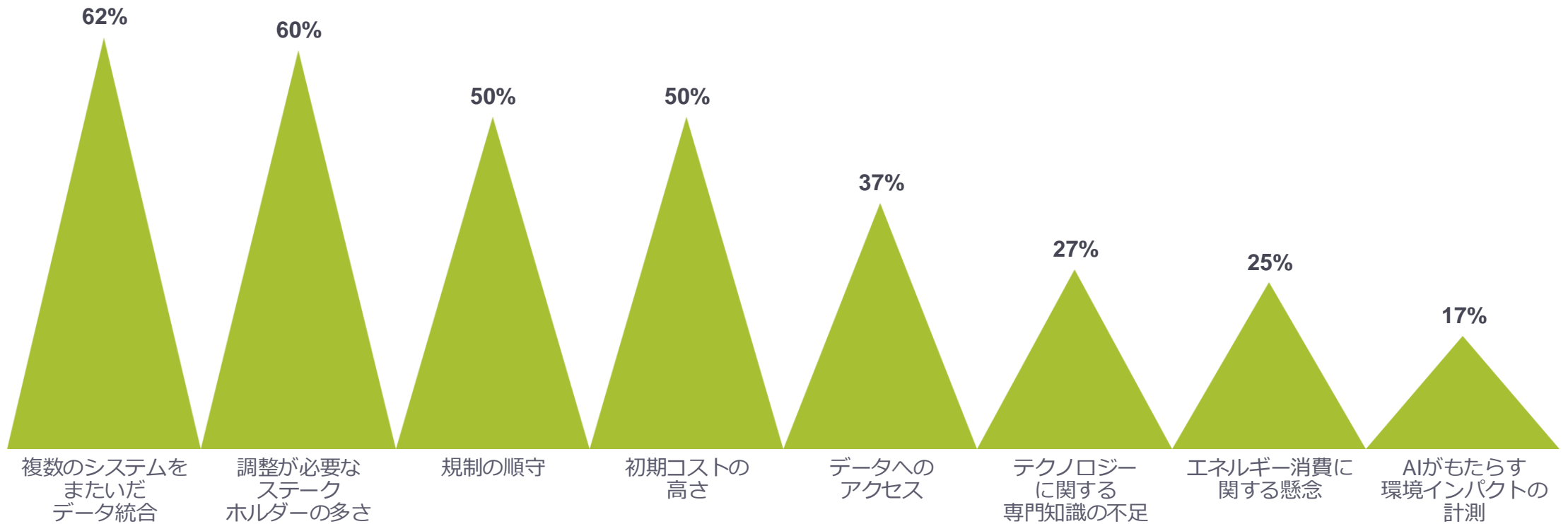
## サステナビリティ関連の取り組みのコストに対するインパクト



- 1 (多大な悪影響)    2 (ある程度の悪影響)    3 (悪影響でも好影響でもない)    4 (ある程度の好影響)    5 (多大な好影響)



# サステナビリティ関連の取り組みにAIを取り入れる上での主な課題



N = 60

質問：サステナビリティ関連の取り組みにAIを取り入れる上での主な課題は何ですか。



# サステナビリティテクノロジー能力の構築



23%

社内製ソリューションを刷新

22%

既製のスタンダードアローン型ソリューションを購入

17%

自社のエンタープライズシステムが提供するソリューションを利用

13%

クラウドプラットフォーム事業者が提供するソリューションを利用

13%

システムインテグレーターとの関与の下、データプロジェクトを実施

12%

コンサルティング企業の関与の下、ロードマップを策定

N = 60

質問：あなたの組織では、サステナビリティ報告能力をどのように構築していますか。